

経済連情報 4

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2023. 4
● NO.1303

JA静岡2か年計画について

Main topics

JA静岡2か年計画について01

topics&news

花の都しずおかをPR

第38回静岡県花の展覧会03

選ばれる静岡みかん・信頼される柑橘産地を未来につなごう

令和5年静岡県柑橘生産者大会を開催 ...03

栽培技術向上のために

第43回静岡県中晩生柑橘品評会04

県産農産物をPR

愛知県で静岡県フェアを開催04

東京事務所の取組を紹介

「ごちそうカントリー」番組収録と放送05

バレンタインに花を贈ろう

フラワーバレンタイン05

お知らせ

静岡県農業振興基金協会からご案内06

最新研究紹介

農林技術研究所だより

茶有機栽培技術の紹介

— 開発した機械について —07

お知らせ

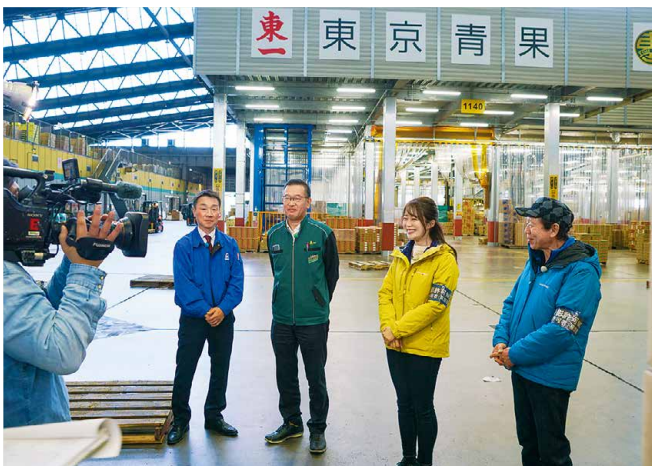
テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ...09

建設部からのお知らせ09

令和5年3月31日付 定年・選択定年退職者のご紹介 ...10



▲静岡県花の展覧会



▲ごちそうカントリー番組収録と放送(大田市場)

JA静岡

2か年計画について

Ⅰ はじめに

本会は、令和2年度からのJA静岡3か年計画の中で、農業の飛躍的拡大や機能集中等によるコスト低減に向けた各施策と自己改革に取り組み、進めました。

現在の農業を取り巻く情勢は、輸入に依存している肥料原料や生産資材の価格高騰に加え、頻発する気象災害や家畜伝染病の発生など生産基盤を揺るがす要因も多く、目まぐるしく変化する環境への対応が求められています。また、「SDGs（持続可能な開発目標）」や「みどりの食料システム戦略」など環境問題への関心は世界的に高まっており、環境調和型農業への取り組みも重要となっています。

JA静岡2か年計画（以降2か年計画）を策定するにあたり、このような状況を踏まえつつ現状の課題を明確化し、産地の維持・拡大に向けて農業振興の強化と農作業の効率化、コスト低減に向けた支援に取り組むことにより、農家所得の向上と静岡県農業の持続的発展が図られる計画を策定することとします。

Ⅱ 2か年計画策定に向けた現状の課題

① 農業経営に関する課題

- ① 新規就農者支援に取り組む生産部会の割合が減少
- ② 生産資材等の価格高騰分を、販売価格に転嫁できない
- ③ 農業経営が困難となり離農が加速
- ④ 大規模担い手農家、農業法人での人手不足
- ⑤ 販売方法が多様化している
- ⑥ 農作業における人手不足
- ⑦ 地球温暖化の影響により異常気象（台風、大雪）が増えている。

② 生産振興に関する課題

- ① 営農指導員の育成強化
- ② 生産振興に関する課題
- ③ 営農指導員の育成強化

◆ 基本目標1 ◆

産地の維持・拡大に向けて農業振興を強化します

- 戦略1** 実需者や関係機関との連携強化による販売機能の強化
- 戦略2** 多様な実需者ニーズに対応した販売方法の拡大
- 戦略3** 継続的な農業経営を維持するための生産拡大の支援

◆ 基本目標2 ◆

新時代に対応した総合事業改革を行います

- 戦略1** コスト低減と農作業の効率化に向けた支援
- 戦略2** 組合員や地域住民のJA利用促進にむけた取組支援

◆ 基本目標3 ◆

持続可能な経営基盤を確立・強化します

- 戦略1** 効率的な事業運営体制の構築
- 戦略2** 健全経営の強化

Ⅲ 2か年計画について

1. 基本目標と戦略

2か年計画では、3つの基本目標を掲げ、それぞれの目標で戦略を作りました。

② 農業機械等の専門的な知識・技術を持った職員の育成強化

③ 共同利用施設における運営コストの上昇

④ 生産資材や物流に関するコスト上昇

⑤ 農畜産物の消費、需要の減退

③ 持続可能な経営基盤の確立・強化に関する課題

① 「早期警戒制度」「JA自己改革」の実践に関する支援

② 第53回静岡県農業協同組合大会の決議への対応

③ 部門別収支管理の強化

④ 人材育成及び確保

⑤ 子会社管理の徹底

⑥ 広報活動の強化

県域としての機能強化と連合会としての役割を発揮し、持続可能な静岡県農業を目指します。

基本目標1 産地の維持・拡大に向けて農業振興を強化します

戦略1 | 販売機能の強化

- (1) 主力品目（いちご、レタス、トマト等）の県下横断的な販売戦略構築による販売強化
- (2) パートナー市場と連携し、実需者への営業力強化による販路開拓・拡大
- (3) 実需者への営業強化による静岡県産みかんのブランド確立
- (4) 茶商と茶工場とのマッチングによる契約生産販売の強化
- (5) 食糧事業における県内外卸と事業提携による販売強化
- (6) 部分肉加工事業の拡大と食肉販売における新規取引先の獲得

戦略2 | 販売方法の拡大

- (1) 直接販売の営業強化と業務加工野菜の供給拡大
- (2) 農業生産法人等との連携強化による取扱拡大
- (3) 輸出先国の規制やマーケットインに対応した産地・農産物づくりと果実類の輸出先国の開拓、輸出強化
- (4) 食肉事業における静岡県統一ブランドの構築と輸出拡大
- (5) 海外市場に向けた緑茶販路拡大プロジェクトの実践
- (6) 静岡手しお屋（JAタウン）の認知度向上と魅力ある商品アイテムの拡充

戦略3 | 生産拡大の支援（生産振興）

- (1) 選果・荷造り作業受託（パッケージセンター）による生産拡大支援の検討
- (2) 高品質で安定した生産苗の供給と拡大
- (3) JA仕上げ茶事業の経営改善とJA間連携の実践
- (4) 適正施肥、過期防除の普及と予約推進活動の取組強化
- (5) 農機事業の課題整理と将来目指す農機事業の方向性検討
- (6) 安定生産が可能な「多収穫米」の普及・買取集荷の拡大
- (7) 農作業における人手不足の解消に向けたスマホアプリなどを利用した労働力支援の提案

基本目標2 新時代に対応した総合事業改革を行います

戦略1 | コスト低減と農作業の効率化

- (1) 包装資材の規格集約・共通化による他県域との共同仕入品目の設定・導入
- (2) 土壌分析業務（土壌分析センター）の受託強化と土づくり、営農指導の支援
- (3) 地域横断的な配合肥料の提案と堆肥を使用した混合肥料の開発・普及
- (4) 安定供給ができる未利用資源を原料としたエコ肥料の発掘と実用化
- (5) 肥料の更なる銘柄集約と肥料農業受注センターの配車機能、物流センターの活用による効率的な物流網の構築
- (6) ICT等高性能な農業機械の研修、実証試験の実施
- (7) 飼料用米・子実用トウモロコシの有効活用と稲わらの流通による飼料高騰対策への取組

戦略2 | JA利用促進にむけた取組支援

- (1) ガソリンスタンドの永続化に向けたエネルギー供給体制の再構築と機器リニューアル提案の実施
- (2) 本県産茶葉、果汁を原料とした飲料の消費拡大と健康や快適な暮らしを支援する生活商品の供給拡大
- (3) JA葬祭における県下統一広報活動による認知度向上と「事前相談」「事後相談」の強化によるシェア拡大
- (4) JA施設や農業法人施設、個人住宅に対する省エネ、災害対策提案の実施

J A 静岡経済連 2 か年計画（令和 5 ～ 6 年度） 事業別重点項目

営農総合対策部

【JA支援】

- ①JA間事業連携、物流合理化、購買店舗の整備による、JA営農経済改革の支援
- ②自己改革や早期警戒制度等でJAが実践する施策に対し、本会営農部署間の連携推進及び調整することで、総合的な支援を行います。
- ③農作業における人手不足の解消に向けたスマホアプリなどを利用した労働力支援の提案

【生産振興開発】

- ①農産物安全分析センターの効果的な事業運営と計画的な分析推進
- ②JAの生産部会や持続可能な経営体への出向く活動を強化するための提案
- ③「あぐりんく静岡」を活用し、効果的かつタイムリーな情報提供

【柑橘果樹】

- ①静岡県育成品種「春しずか」の推進やICT機器の導入による柑橘園地の生産性向上に向けた取組
- ②パートナー市場との連携による予約相対取引や契約販売の取組と、実需者への営業強化による静岡県産みかんの販売強化

【野菜花卉】

- ①主力品目（いちご、レタス、トマト等）の県下横断的な販売戦略構築による販売強化
- ②パートナー市場と連携し、実需者への営業力強化による販路開拓・拡大
- ③農業生産法人への販売支援
- ④選果・荷造り作業受託による生産拡大支援の検討（パッケージセンター）

【営農資材】

- ①包装資材の規格集約・共通化による他県域との共同仕入品目の設定・導入
- ②高品質で安定した生産苗の供給と拡大
- ③農業ICT（環境制御・モニタリング）関連資材の提案普及

みかん園芸部

茶業部

- ①茶商と茶工場とのマッチング（契約生産販売等）強化による販売強化
- ②仕上茶取引先との関係強化による原料供給の拡大
- ③海外市場に向けた緑茶販路拡大プロジェクトの実践
- ④JA仕上げ茶事業の経営改善とJA間連携の実践

生産資材部

【肥料農業】

- ①適正施肥、適期防除の普及と安定供給に向けた予約推進活動の取組強化
- ②安定供給ができる未利用資源を原料としたエコ肥料の発掘と実用化
- ③土壌分析業務（土壌分析センター）の受託強化と土づくり、営農指導の支援
- ④地域横断的な配合肥料の提案と堆肥を使用した混合肥料の開発・普及拡大
- ⑤更なる銘柄集約と肥料農業受注センターの配車機能、物流センターの活用による効率的な物流網の構築
- ⑥天敵農業の新たな作物への展開・普及推進
- ⑦営農生産法人への訪問活動強化による事業拡大

【農業機械】

- ①農機事業の課題整理と将来目指す農機事業の方向性検討
- ②部品事業、整備センターの機能強化と人材育成
- ③ICT等高性能機械の研修、実証試験の実施
- ④JAグループ共同購入機（トラクター、コンバイン）の拡販

営業部

【流通開発】

- ①輸出先国の規制やマーケットインに対応した産地・農産物づくりと果実類の輸出先国の開拓、輸出強化
- ②静岡手しお屋（JAタウン）の認知度向上と魅力ある商品アイテムの拡充

【特販】

- ①直接販売の営業強化と業務加工野菜の供給拡大
- ②農業生産法人等との連携強化による取扱拡大

くらし支援部

【生活葬祭】

- ①本県産茶葉、果汁を原料とした飲料の消費拡大と健康や快適な暮らしを支援する生活商品の供給拡大
- ②JA葬祭における県下統一広報活動による認知度向上と「事前相談」「事後相談」の強化によるシェア拡大

【総合エネルギー】

- ①SS毎に目指すべき方向性（燃料油販売型、油外販売特化型、異業種設置型、ライフライン維持型）を明確にして、経営効率化を推進する。
- ②ガソリンスタンドの永続化に向けたエネルギー供給体制の再構築と機器リニューアル提案の実施

食糧部

- ①近年の異常気象に対応した安定生産が可能な「多収性品種」の普及・買取集荷の拡大
- ②世界的な穀物の争奪等を踏まえ、稲わらの流通拡大や米粉、子実用トウモロコシ等の実証生産に取り組む
- ③県内消費者に対し、地産地消で安心安全なパールライス販売の強化
- ④県内外卸と新たな事業提携を進め、仕入れ、精米受託、共同配送体制を模索し、新たな納入先の確保とコスト低減に取り組む

畜産部

【畜産】

- ①農場経営による一貫生産型飼養管理技術の構築と生産基盤の維持拡大
- ②未利用原料等の活用による低価格飼料の検討・開発・給与試験を行い、JA・東日本くみあい飼料(株)と一体となった農家所得向上への取組
- ③JA・県・本会他部署と連携し、飼料用米・子実用トウモロコシの有効活用による、飼料高騰対策への取組

【食肉】

- ①新食肉センター運営のための業務確認と対応の検討
- ②部分肉加工事業の拡大と食肉販売における新規取引先の獲得
- ③静岡県統一ブランドの構築と輸出拡大

建設部

- ①JA支店統廃合の店舗活用プラン提案
- ②JA施設や農業法人施設、個人住宅に対する省エネ、災害対策提案の実施
- ③補助事業の積極的な活用提案
- ④JA経済事業に貢献できる事業スキームの拡大（リフォーム・蓄電池提案等）

管理部

- ①部門別収支管理の徹底と業務改善の継続実施
- ②教育研修体系に基づき職員のキャリアに応じた能力開発、人材育成
- ③コンプライアンスマニュアルに基づく法令を遵守した業務遂行
- ④DXによる生産性向上の取り組み検討と広報活動の強化

花の都しずおかをPR 第38回静岡県花の展覧会

2月10日、静岡県花卉園芸組合連合会（事務局：野菜花卉課）は、掛川市の掛川花鳥園で第38回静岡県花の展覧会審査会を開催しました。最高位である金賞1席の農林水産大臣賞・J A全農会長賞・日本農業新聞会長賞には、J Aふじ伊豆の山田弘志さんが出品したカーネーション「ブラテリア」が輝きました。

展覧会では、県内の生産者から全8部門（カーネーション、きく、ばら、ガーベラ、トルコギキョウ、一般切花、枝物、鉢物）に300点の出品がありました。県農林技術研究所の岩崎敏之所長が審査を務め、県の担当者ら審査員が花の商品性や形質、病害虫の有無などを確かめました。

金賞1席に輝いたカーネーションについて「花色の発色がすばらしく、ポリウム感、そろい、花と茎のバランスなど全てにおいて大変すば



▲審査する審査員

賞	氏名	J A名	部門名	品種名	特別賞
金賞 1席	山田弘志	J Aふじ伊豆	カーネーション	ブラテリア	農林水産大臣賞 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞 日本農業新聞会長賞
2席	兼子正春	J Aとびあ浜松	ガーベラ	キムシー	農水省農産局長賞 静岡県農業協同組合中央会代表理事会長賞 静岡新聞・静岡放送社長賞
3席	大場堅司	J A掛川市	ばら	カルピデュム	静岡県知事賞 静岡県信用農業協同組合連合会理事長賞 静岡第一テレビ社長賞
4席	岡田浩一	J Aとびあ浜松	一般切花（スイートピー）	ソフィアピンク	静岡県知事賞 全国共済農業協同組合連合会静岡県本部運営委員会会長賞
5席	逸藤美行	—	鉢物（マーガレット×ローダンセマム属間雑種）	ビジュマムローズクォーツ	静岡県知事賞 静岡県厚生農業協同組合連合会理事長賞
6席	袴田加代	J Aとびあ浜松	枝物	グニーユーカリ	農水省関東農政局長賞 静岡県経済農業協同組合連合会理事長賞
7席	木本大輔	J Aとびあ浜松	きく	セイメリタ	静岡県農林水産業振興会長賞 掛川市長賞
8席	逸藤邦彦	J Aふじ伊豆	トルコギキョウ	プロボースノー	静岡県経済産業部賞 日本花き生産協会会長賞



▲金賞1席山田さんのカーネーション

しい出品物だった」と講評しました。主な金賞受賞者は次の通り。（敬称略）。

選ばれた静岡みかん・信頼される柑橘産地を未来につなごう 令和5年静岡県柑橘生産者大会を開催

2月9日、静岡県経済連柑橘委員会（事務局：柑橘果樹課）と柑橘振興基金協会は、静岡市駿河区のグラシップで「令和5年静岡県柑橘生産者大会」を開きました。大会では、令和5年産柑橘重点実行方針の承認、柑橘品評会の表彰式、講演などを行いました。

令和5年産柑橘重点実行方針では、最重点項目を「安定した出荷量の確保と高品質果実の生産」とし、①改植と間伐の推進、②早期樹勢回復と土づくり、③高品質果実の栽培、④着果管理の徹底の4点を挙げました。表彰式では、

県貯蔵ミカン品評会と県中晩生柑橘品評会で上位入賞した8人を加藤敦啓代表理事理事長が表彰しました。また、県柑橘産業功労者賞の大石智彦さん（J Aおおいがわ）、愛知県のセントライ青果執行役員の金子正さんに柑橘振興基金



▲第57回県貯蔵ミカン品評会で農林水産大臣賞を受賞した高橋誠さん

協会の柴田篤郎会長から表彰状を授与しました。講演では、農業・食品産業技術総合研究機構カンキツ研究領域の岩崎光徳主任研究員が「高品質ミカン栽培技術の変遷」、県農林技術研究所果樹環境適応技術科の増井伸一科長と土田祐大主任研究員が「カンキツにおける総合的病害虫管理（IPM）の歩みと今後の展望」について講演しました。



▲功労者表彰（左：大石智彦さん、右：金子正さん）



▲品評会優秀賞受賞者

栽培技術向上のために

第43回静岡県中晩生柑橘品評会

2月7日、静岡県柑橘振興基金協会と柑橘果樹課は、県農業会館で「第43回静岡県中晩生柑橘品評会」を開きました。審査の結果、望月孝芳さん（JAしみず）の「不知火」が最高位の優秀賞・農林水産省関東農政局長賞に輝きました。

「はるみ」70点、「不知火」37点、「甘夏」56点、「ボンカン」48点が出品され、農研機構や県、市場の担当者、消費者代表らが形状などの外観と糖度、酸度や食味を審査しました。各品種の糖度、酸度の結果は表のとおりです。なお、ボンカンの審査は1月下旬に行いました（本誌3月号に掲載）。

優秀賞受賞者は次のとおり（敬称略）。



第43回 静岡県中晩生柑橘品評会優秀賞受賞者

品種	氏名	JA名	特別賞
不知火	望月孝芳	JAしみず	農林水産省関東農政局長賞
はるみ	望月康伯	JAしみず	静岡県知事賞
甘夏	土屋明浩	JAふじ伊豆	静岡県経済産業部長賞
ボンカン	澤野郁夫	JAしみず	日園連会長賞

果実分析（糖度・酸度）の結果

品種		はるみ	不知火	甘夏	ボンカン
糖度	最高	13.6	14.6	11.9	15.2
	平均	12.0	13.1	10.4	12.2

（単位：度）



▲甘夏（JAふじ伊豆 土屋明浩さん）



▲はるみ（JAしみず 望月康伯）



▲不知火（JAしみず 望月孝芳）



県産農産物をPR

愛知県で静岡県フェアを開催

2月11日と12日の2日間、名古屋事務所は、愛知県名古屋市のイオン熱田店で静岡県フェアを開催しました。フェアでは特設コーナーを設け、県産の新タマネギ「はるたま」やセリリーなどを販売しました。

名古屋事務所が調味料メーカーの理研ビタミンと連携し、店頭で「はるたま」と、同社のドレッシングを組み合わせて試食を提供。同事務所は「コラボ企画を通じて青果物と調味料の相性の良さをアピールし、相乗効果で販売促進したい」と話しました。また、2月24日～26日には愛知県でも静岡県フェアを開催し、旬を迎えた県産農産物のPRを行いました。

東京事務所の取組を紹介

「ごちそうカントリー」番組収録と放送

3月12日、企画管理課は、テレビ番組「ごちそうカントリー」（テレビ局：Daichi-TV、毎週日曜日午前11時40分）の取材に協力し、「大田市場」をテーマに本会東京事務所の取組を紹介し、本会の機能・役割を視聴者へアピールしました。番組収録は3月2日に、東京都大田区の大田市場、品川区の阪急百貨店大井食品館で行いました。

番組では、東京事務所の中村大作所長が出演し、同事務所の業務内容や消費地で本県産青果物の流通に果たす本会の役割と東京事務所の機能・取組を紹介しました。市場関係者として、東京青果株式会社戸塚幹夫常務取締役に出演いただき、旬を迎えている本県産農産物が高品質で販売店からの信頼が厚く、県内JAへの期待も大きいことを紹介しました。また、販売店として阪急百貨店大井麻食品館に店舗を持つ株式会社澤光青果の菊地昭次店長に出演いただき、お客様からも県産農産物の評価が高いことを紹介しました。

「ごちそうカントリー」は、動画配信サイト「hulu」で配信しています（視聴には会員登録が必要です）。



▲大田市場事務棟前でインタビューに答える中村所長（左）



▲大田市場内での撮影（右2人目：東京青果戸塚常務）



▲澤光青果店舗内での撮影（左：菊地店長）

バラエティに花を贈ろう

フラワーバラエティ

2月4日と5日の2日間、県内の有志の花き生産者らで組織するフラワーバラエティ実行委員会は、バラエティンデーで花を贈る「フラワーバラエティ」のPRイベントをJR静岡駅北口地下広場「しずチカ」で開きました。イベントには本会職員も参加し、来場者にフラワーバラエティンと県産花きのPRを行いました。

イベントでは、県中部地域で生産するバラやガーベラなどを展示した他、赤色やピンク色の花で作られたフォトスポットを設置し、来場者が写真撮影を楽しみました。5日には、生産者らが花を持って駅周辺を歩く「フラワーウォーク」を行いました。



▲花きの展示



▲設置されたフォトスポット

静岡県農業振興基金協会からご案内

(公財) 静岡県農業振興基金協会は、本県の農業振興・農村活性化を図ることを目的に担い手育成、農業振興、農村振興等に取り組む農業者等の組織（2名以上）に対し、活動経費の1/2以内（限度額有）を助成します。各事業について以下のとおりをご紹介します。

(1) 担い手育成対策事業（助成率2分の1以内）

事業名	事業内容	事業主体
①農業者経営能力等向上事業	経営、技術向上を図る講座、研修、研究活動等の担い手育成活動	農業者等組織、JA
②担い手等広域交流促進事業	担い手組織が行う東・中・西部に渡る研究会や情報交換会	担い手組織
③生きがい農業応援事業	自給、ファーマーズマーケット出荷を目指す初心者への基礎研修	JA
④女性活動、男女共同参画推進事業	女性の活動及び社会・経営参画を行う女性組織やJA女性部等の活動	農業者等組織、JA

(2) 地域農業振興対策事業（助成率2分の1以内、⑥独自開発は10分の10以内）

事業名	事業内容	事業主体
①農産物マーケティング推進事業	市場調査、新商品開発、ブランド化、販売促進、地産地消、輸出拡大等の活動	農業者等組織、JA
②農業生産研究事業	生産技術、新作目、燃油・肥料・資材高騰対策技術等の研究・実証	農業者等組織、JA
③安全安心な生産基盤づくり事業	I PM、GAP等取得、残留農薬分析、SDGs、みどりの食料システム戦略等の活動	農業者等組織、JA
④農作物鳥獣害対策事業	鳥獣害防止や駆除の研修会・講演会 デジタル技術などを用いた鳥獣被害対策技術の現地実証	農業者等組織、 市民団体、JA
⑤農地集積、耕作放棄地活用推進事業	農地集積の合意形成や、耕作放棄地の再生を行う活動	農業者等組織、 市民団体、JA
⑥農業新技術研究・導入促進事業	新技術等の研究・導入に取り組む事業 (※独自開発は助成率10/10以内も可)	農業者等組織、 農業後継者の組織 (学生等) JA
ア 新商品開発販売研究事業	新商品開発、試験販売、新流通システムの確立研究	
イ 農業新技術開発普及事業	新技術開発研究、普及のための現地実証	
ウ 優良種苗供給事業	新品種や優良種苗の生産供給体制の整備、新品種の育成	

(3) 農村振興対策事業（助成率2分の1以内）

事業名	事業内容	事業主体
①地域特産づくり推進事業	新たな農林産物の導入、特産品開発、販売促進活動	農業者等組織
②グリーン・ツーリズム推進事業	景観、伝統文化、体験施設、地域資源を活用して取り組むグリーン・ツーリズム活動	農業者等組織
③食農教育支援事業	消費者や児童・生徒への農業体験、調理加工体験、学校との食農教育活動	農業者等組織、 市民団体、JA
④直売所等開設支援事業	農産物の地域内流通、直売所・店舗・朝市等の開設及び開設翌年度の運営活動	農業者等組織

(4) 日程

各事業は4月1日から実施可能ですが、助成を活用するには申請が必要です。5月下旬の事前審査会を経て、6月末申請書の締切となっています。助成事業の申請については、静岡県農業振興基金協会事務局までお問い合わせください。

事務局

公益社団法人 静岡県農業振興基金協会

〒422-8619 静岡市駿河区曲金三丁目8番1号

電話：054-284-9545 FAX：054-284-6001 E-mail：kikin@chu.ja-shizuoka.or.jp

ホームページ：農業振興基金協会 (<http://group.ja-shizuoka.or.jp/kikin>)

農林技術
研究所
だより

茶有機栽培技術の紹介

— 開発した機械について —

— はじめに —

世界的な日本食ブームや健康志向の高まりなどから緑茶の輸出が年々増加しており、特にオーガニック志向による有機栽培茶の需要は拡大しています。海外の厳しい残留農薬基準（MRL）に対応する上で化学合成農薬を使用しない有機栽培の取組は有利になります。

有機栽培については、令和3年5月に農林水産省から示された、「みどりの食料システム戦略」において国を挙げて推進を図っています。静岡県においても、「静岡県茶業振興計画」の中で、茶有機栽培面積の目標を、現在の約200haから400haに拡大する目標を掲げています。

しかしながら、有機栽培では、病害虫の多発により、二番茶以降の摘採が出来ない事例も多く、低収量の一因となっています。また、除草作業の労力負担も大きく、課題となっています。有機栽培面積を拡大していくためには、こうした問題を解決

する必要があります。

そこで、茶業研究センターを中心とした研究グループでは、令和2年度から令和4年度にかけて、化学合成農薬に頼らない病害虫防除によって二番茶以降の摘採率を高めるため



図1 茶園用病害虫クリーナー（2021年10月特許出願）

に、「茶園用病害虫クリーナー」を開発しました。また、年間除草労働時間を半減するための除草技術として、「茶園用病害虫クリーナー搭載型除草機」も開発しました。今回は、これらの機械について紹介します。

二 茶園用病害虫クリーナーの開発

化学合成農薬に頼らない病害虫防除として、送風（物理的防除手段）により病葉や害虫を除去する茶園用病害虫クリーナーを（株）寺田製作所と共同で開発しました（図1）。

本機は、中山間地茶園でも使いやすい軽量小型機で、アタッチメントを外せば750kgトラックでも運搬可能です。また、補助的に薬剤散布機能を装備することもできます。

本機の病害虫防除方法の概略を図2に示しました。うね幅いっぱい並べたノズルを樹冠中に差し込み、送風しながら前進することで樹冠内の病葉・害虫を捕虫袋に収容・除去します。



図2 茶園用病害虫クリーナーの病害虫防除方法の概略と捕虫袋への病害虫の収容

私が紹介します！



静岡県農林技術研究所
茶業研究センター
茶環境適応技術科 科長
片井 秀幸

本機の主な特徴として、①樹冠中に溜まった炭疽病罹病葉を除去し、感染源を取り除くことで次期の炭疽病発病を低減（無処理の場合と比べ炭疽病葉数がほぼ半減）、②種類を問わず幅広く害虫を除去、③送風による物理的防除のため、残効性はない、④異物（茶株面の落葉等）の除去（図3）が挙げられます。



図3 茶株面の落葉の除去※再整枝（化粧ならし）前に処理

三 茶園用病害虫クリーナー搭載型除草機の開発

除草作業時間の短縮を目指して、茶園用病害虫クリーナーの履帯後方にエンジン式刈払機一対を設置し、茶株を抱え込むようにナイロンコードの刈刃部を雨落ち部に差し込むことで、うね間と樹冠下を同時に除草できる除草機を（株）寺田製作所と共同で開発しました（図4）。本除草機は、乗用型茶園管理機に搭載でき、外部油圧は不要であり、除草部分は走行体とは独立した動力で駆動します。

本除草機では、①毎秒0・25m程度の走行速度で安定した除草（10a当たり一時間弱）が可能、②年間除草作業時間は、慣行（刈払い機＋手



図4 茶園用病害虫クリーナー搭載型除草機（2022年10月特許出願）



図5 除草機作動前後の雑草の状況

取り）の10a当たり40時間に対して本除草機を使用した除草体系では約

半分以下に削減することが可能、③除草効果は少なくとも1か月上持続可能、④3月から9月までに4回程度の稼働で効果的な除草が可能となります（図5）。

四 おわりに

今回、茶業研究センターを中心とした研究グループでは、茶園用病害虫クリーナー及び茶園用病害虫クリーナー搭載型除草機を開発しました。開発した機械を普及するため、令和3年度から現地実証試験を実施しています。令和5年度以降も市販化に向けた開発機の改良・性能評価を行い、令和6年度の商品化を目指しています。

このたび紹介した内容について、「茶有機栽培技術の紹介―開発した機械を中心に―」として技術パンフレットを作成しましたので、生産現場で御活用いただき、安定した有機栽培の取組につながることに期待しています。

連絡先

菊川市倉沢一七〇六一一
静岡県農林技術研究所
茶業研究センター
茶環境適応技術科
Mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米をPRしました。3月分の放送をもって予定していた全11回が終了しました。

最終となる第11回目(3月18日)の放送では、フォーリンラブ・バービーさんが、磐田市・袋井市から「にこまる」を紹介しました。「にこまる」はふっくらもちもちの食感と粒ぞろいの良さが特徴。食味ランキングで最高ランクの特Aを5年連続受賞しているお米です。番組では生産者の佐野喜治さんがビデオメッセージで出演し県産「にこまる」をPRしました。

令和4年度にご紹介した県産米は表のとおりです。1年間ご覧いただきありがとうございました。



令和4年度「しずおかごはんが食べたい!」で紹介した県産米

放送回	放送日	市町	米名称	米産地
#1	5月21日	三島市・清水町	にこまる	J Aとびあ浜松
#2	6月18日	静岡市清水区	こしひかり「しみずの風」	J Aしみず
#3	7月16日	伊豆の国市	こしひかり「伊豆の恵」	J Aふじ伊豆
#4	8月20日	静岡市葵区・駿河区	ぎぬすめ	J A静岡市
#5	9月17日	浜松市東区	静岡コシヒカリ	J Aとびあ浜松
#6	10月15日	掛川市	掛川コシヒカリ	J A掛川市
#7	11月19日	藤枝市・焼津市	「金芽米」	J Aおおいがわ
#8	12月17日	島田市・吉田町	静岡コシヒカリ	J Aハイナン
#9	1月21日	富士市・富士宮市	酒米「誉富士」	J Aふじ伊豆
#10	2月18日	御前崎市・牧之原市	こしひかり「夢咲コシヒカリ」	J A遠州夢咲
#11	3月18日	磐田市・袋井市	にこまる	J A遠州中央



建設部からのお知らせ

担当 建設部 054-284-9523

富士伊豆農業協同組合

御殿場地区に新しい農業施設の完成
御殿場肥料倉庫建設工事
竣工式

2月7日、J Aふじ伊豆は、御殿場肥料倉庫建設工事の竣工式を行いました。

神事は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を行い、鈴木正三代表理事組合長をはじめ、J A役職員、地元関係者、工事業者などの出席者により厳粛に執り行われました。

本工事は、御殿場市仁杉にある御殿場ライスセンターの敷地内に新たに肥料倉庫を建設しました。建物規模は鉄骨造平屋建、延床面積559.78㎡です。

倉庫内にはパレットにて肥料を保管し、最大パレット数183枚が保管可能な大型肥料倉庫として整備しました。

設計監理は、静岡県経済連一級建築士事務所が行いました。



▲建物外観写真



▲鈴木組合長玉串奉奠



▲鈴木組合長挨拶

令和5年3月31日付

定年・選択定年退職者のご紹介

このたび、令和5年3月31日をもって定年退職を迎えられた方々に、加藤敦啓代表理事理事長より本会職員を代表して感謝状を贈りました。ここに13人の方々をご紹介します。長い間本会を支えていただき誠にありがとうございました。末永くご多幸をお祈り申し上げます。



後列左より

飯塚 聡・竹内 伊知郎・紅林 弘俊・澤崎 満直・深澤 嘉紀・鈴木 雅也・平川 孝博・鳥澤 禎一郎・堀 要・酒井 啓行・田中 要

前列左より

青木 三佐子

鎌野 厚
(常務理事)

寺田 国彦
(代表理事専務)

加藤 敦啓
(代表理事理事長)

石川 和弘
(常務理事)

市川 敬弘
(常勤監事)

澤崎 和重



▲退職者の謝辞



▲授与式の様子

静岡県産「にこまる」(西部地区)が5年連続で特A評価を獲得!

静岡県産(西部地区)

にこまる

5年連続「特A」評価獲得



もちもちとした食感と強い粘りが特徴のお米です。
ふっくらとした炊き上がりのお米は嚼むほどに味わいが増す、
笑顔がこぼれる美味しさです。

新潟 魚沼コシヒカリ、山形 つや姫、北海道 ゆめぴりか などの有名ブランド米も同様に特A評価を獲得しています。

日本穀物検定協会 令和4年産 米食味ランキングにおいて 特A評価獲得

生産者の努力が実りました

※商品そのものの評価ではございません

静岡県米麦流通連絡協議会(事務局:食糧課)では、静岡県産米を購入いただいたお客様に抽選で「特選と牛 静岡そだち」が当たるキャンペーンを実施しています。キャンペーン期間は6月末までとなります。対象商品は、キャンペーンシールが付いている静岡県産米となります。



▲応募は経済連HPから!



担当: 食糧部 食糧課 (TEL: 054-284-9737)

